

高低差を「良い距離」に | (有) 義空間設計工房

那覇市首里にあるKさん宅は前面道路より3メートル下がった敷地を生かして地下階を設けた。敷地の難を逆手に取って約25年ぶりに同居する親子の居住空間を分け、いい距離感を生んだ。

地下階と1階 親子の空間分ける

Kさん宅 RC造/自由設計/家族2人



Kさん宅が建つのは道路と3メートル、隣地と5メートルの高低差がある土地で、手前には川が流れる。川（崖）との距離を取るため地下階はコンパクトにし、1階は張り出し式にして床面積を確保した

的を絞って開口

Kさん宅が建つのは、「先祖代々受け継いできたが、家が建ったことはない」と母親（83）が話すほど難があった土地。

前面道路とは3メートル、隣地とはさらに5メートルの高低差があり、南西側には川が流れる。おまけに「く」の字型の敷地。

Kさんは同級生の建築士に設計を依頼。「土地を見てもらったら『ここしか無いの?』って苦笑していた。でも、高低差をうまく生かした家を建ててくれた」と感謝しきり。

家は、駐車場から玄関、室内までバリアフリーで続く1階と、地下1階の2層建て。

1階は母親の居住空間であり、親子のだんらんスペース。

LDKに開放感をもたしているのはリビングテラスだ=下写真。Kさん宅は住宅密集地かつ、他の家より低い位置にあるため三方を壁で囲み視線をカット。外と「目」が合わない南側へとピンポイントに開いている。米国暮らしをしていたKさんにとっては、「晴雨問わずホームパーティーができる最高の場所」だ。

同じく1階にある母親の寝室は、ウォークインクローゼットへとつながっていて、クローゼットから洗面脱衣所、トイレ、浴室まで直線で行き来ができる。母親は「前の家ではつえが欠かせなかったが、今はあまり使ってない」と笑う。

居室通らず地下階へ

前面道路から下がった敷地を生かして設けられた地下1階はKさんの居住空間。

1階・玄関ホールのすぐ脇に階段があり、1階の居室を通らずとも地下にいける。大学教授のKさんは、夜遅く帰ることも多い。「母親に気を使わず出入りできるので、助かっている」。

地下にもトイレやシャワー、小さなシンクがある。普段の食事は親子一緒だが、仕事を立て込むと地下にこもって集中する。「母と暮らすのは約25年ぶり。不安はあったが、ちょうど良い距離感」と話す。

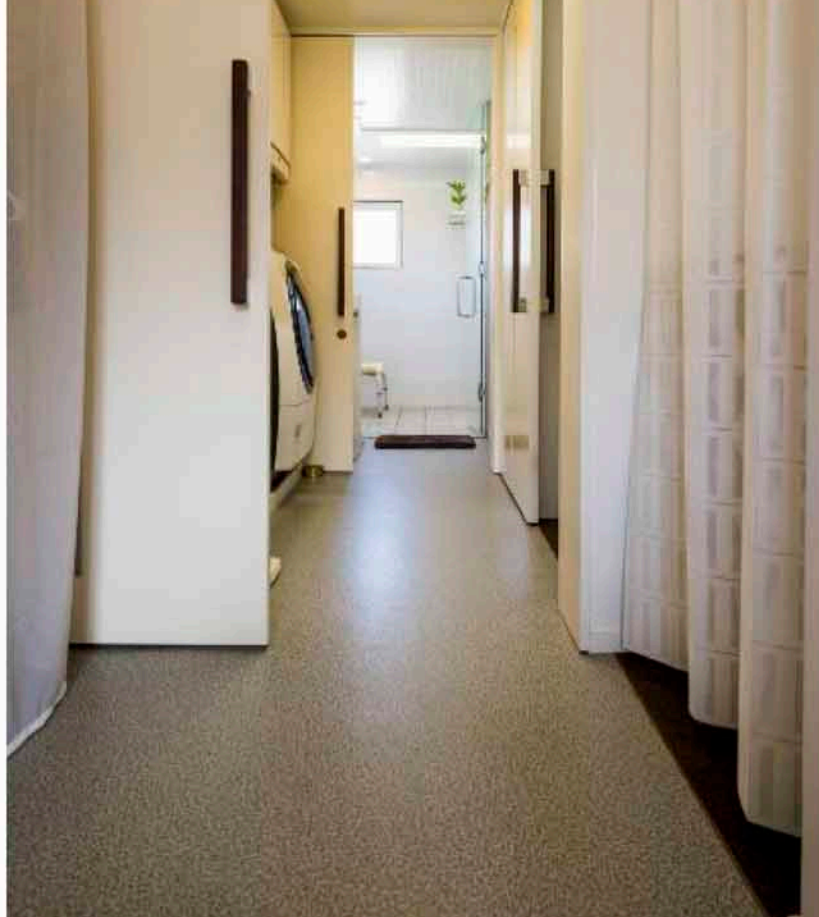
同居して、良かったことがもう一つ。「母が暮らしやすいなら私も老後、暮らしやすいはず。先を見越した家が出来た」。難を乗り越え、安住の家を手に入れた。



1階のLDK。広めにとったキッチンは親子2人でも動きやすい。階段のある玄関ホールとの間には扉があり（写真中央）、「開めてしまえば、私が夜遅く帰ってきてても母の睡眠を邪魔しない」とKさん



1階のリビングテラス。三方が壁で囲まれた半戸外空間だから、晴雨問わず開け放てる。他の家からの視線が気にならない方向にピンポイントで開く



1階、母親のウォークインクローゼットから洗面脱衣所、トイレ、浴室まで直線状につながっている。「段差もなく移動しやすい」と母親。窓が少ないことから、直線の中央にある脱衣所にトップライトを設けて明るさを確保

ここがポイント

地下階で敷地を“造成”

前面道路の高さまで敷地全体に盛り土をし、造成するやり方もあるが「お金と時間が掛かり過ぎる」と、義空間設計工房の1級建築士・伊良波朝義さんは、選択しなかった。

歪な敷地を無駄なく安全に生かすため、選んだ方法は「地下階を設ける」こと。

地下1階が盛り土の役目も果たし、1階は前面道路と同じ高さになる。さらに「地下階は擁壁の役目も果たす」と話す。「親子の居住空間を分けて」との要望もあったことから、階層を分けることは理にかなっていた。

難の多い敷地の中で、家の基礎を造る場所も構造の専門家とともに模索。南西にある川（崖）から距離を取るために北東側に寄せ、地下階は17坪とコンパクトにまとめた。「地下階を大きくすると、それだけ基礎が崖に近づいてしまう。その分、1階は7坪ほど張り出させ、床面積を確保した」。

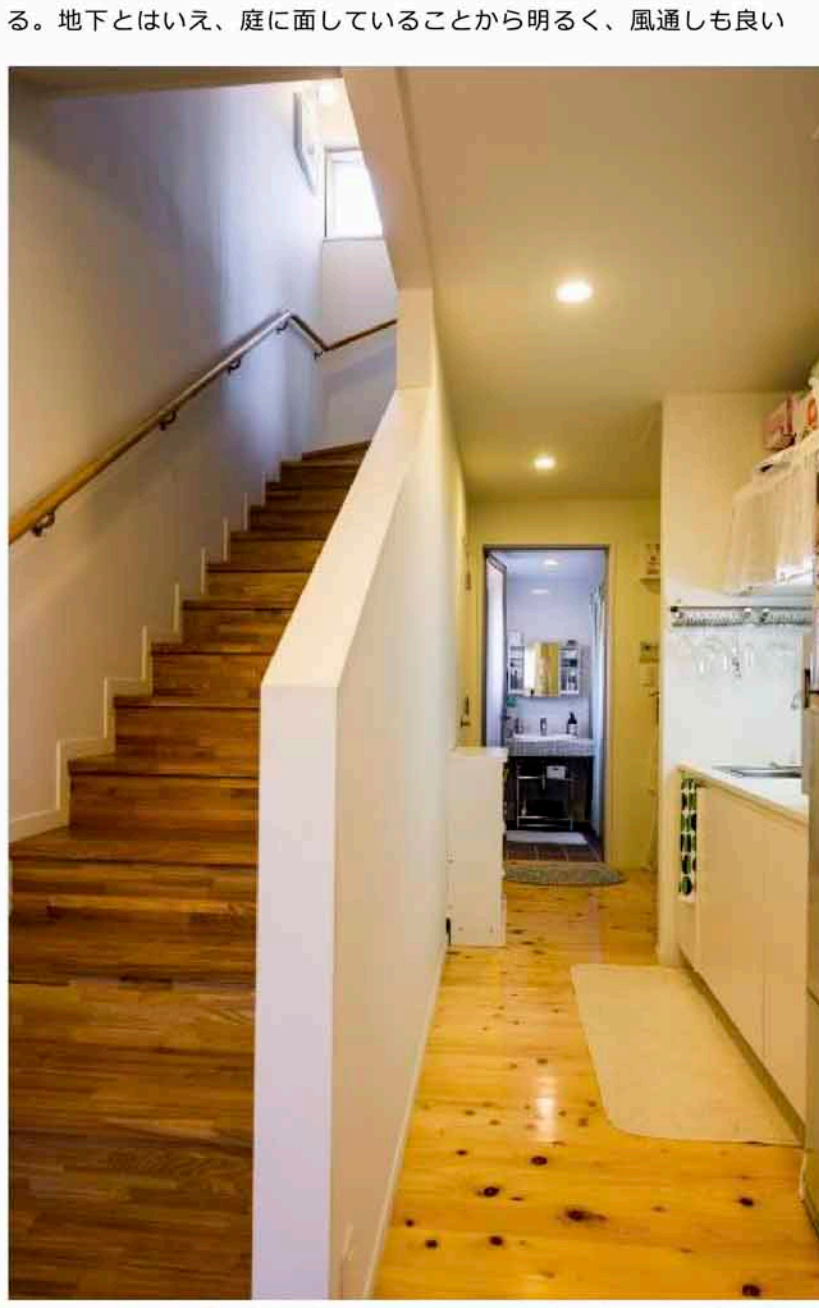
近隣から見下ろされる視線を遮るため、リビングテラスは壁で囲ってボックス型にした。

とはいえ、風や光が十分に入らなければ意味がない。そこで「東からの光と風も取り入れるべく、ボックス東側の上部にも横長のスリットを開けた」。リビングテラスに立つと、このスリットの効果が分かる。光と風が通る上、視線が空へと抜けるから、囲われた窮屈さが格段に減る。

室内に近い位置にあり、「中へも心地良さを運んでくれる」と説明した。



地下1階、Kさんのリビングと寝室。間は扉で仕切ることができる。Kさんの友人が来たときはリビングが客室に変わる。地下とはいえ、庭に面していることから明るく、風通しも良い



地下にもシンク（写真右側）やシャワー室（奥）があり、仕事で家にこもることも多いKさんは重宝している。寝室からウォークインクローゼットを通り、シャワー室へ行くこともできる



前面道路側から見た外観。玄関は花ブロックで覆って、ゆるく視線をカット

【DATA】

家族構成：Kさん、母親

敷地面積：287.14㎡（約87坪）

1階床面積：80.75㎡（約24坪） 地下1階（ \cup ）：57.60㎡（約17坪）

建ぺい率：31.27%（許容50%） 容積率：48.18%（許容100%）

用途地域：第一種低層住居専用地域

躯体構造：鉄筋コンクリート壁式構造

設計：(有) 義空間設計工房 伊良波朝義・上地結華

構造：(株) MAY設計事務所

施工：山城建設

電気：神谷電設

水道：新栄設備工業

ガス：沖縄ガス（株）

キッチン：(有) MOV